

他人事ではすまされない

日本の貧困・格差の現状

開催報告

開催日 2013年11月30日(土) 10:30~13:00

会場 東京都生協連会館 3階

講師 講演1: 宇都宮 健児氏(弁護士)

講演2: 赤石千衣子氏(しんぐるまざあずふぉーらむ理事)

参加人数 45名

主催 東京都生協連消費者行政連絡会

開会前	NHK アサイチ「サイレントプア」DVD上映
講演1	10:35~11:35
休憩	11:40~11:45
講演2	11:45~12:40
質問	12:40~12:55
閉会	13:10

講演1 「名誉村長は語る！年越し派遣村からの5年」

宇都宮 健児氏

～広がる貧困について～

1 格差の広がり

◆増える貧困・・貧困の広がりを表す相対的貧困率・所得や資産の不平等や格差を表すジニ係数は、いずれも過去最悪となっている。

全労働者の3人に1人以上が非正規労働者

年収200万円未満の労働者が1000万人

給与所得者の平均年収は下がり続けている

260万人近く存在する失業者。その2割しか失業保険を受給していない

年金だけでは生活できない高齢者が急増

貯蓄ゼロ世帯は26%に急増

4年制の大学生2人に一人が奨学金を利用

国民健康保険も20%近くが滞納

などなど

◆富の集中・・金持ちはより金持ちに！

- ・企業の株主配当額はこの10年間で2倍以上となり年間10兆円を超えている。
- ・役員報酬はこの10年間で2倍以上となっている。
- ・年収5000万円以上の高額所得者はこの10年間で3倍となっている。
- ・企業の内部留保は、この10年間で1.5倍、約290兆円となっている。

参考—ドイツでは、非正規はリスクであることから、正規より賃金を高く払う仕組みになっている。

2 貧困と格差拡大の要因として考えられる3つの要素

- (1) 脆弱な社会保障制度と非正規労働者・働く貧困層(ワーキングプア)の拡大。
- (2) 家族、地域社会、企業の福利厚生制度が不十分な社会保障制度を補完してきた。
- (3) 新自由主義的・市場原理主義的な国の政策が地縁・血縁・社縁を崩壊させ、貧困と格差の拡大に拍車をかけた。—— 無縁社会の到来と餓死、孤立死の増加

3 現代の貧困の特徴

- ・「経済の貧困」+「関係の貧困」(社会的・人間的孤立)
- ・「関係の貧困」は貧困当事者を社会的・人間的に孤立させ「生きがい」や「希望」を奪い去ってしまう。

4 安倍政権による生活保護費の大幅削減と生活保護制度・社会保障制度改悪の動き

- ・生活保護基準過去最大の大幅引き下げ
- ・生活保護制度の改悪(生活保護法改悪法案)を突破口として社会保障制度全体を改悪しようとしている。
- ・生活保護受給者の増加は、わが国において貧困と格差が拡大している結果である。

政府が取り組まなければならないのは、生活保護制度の改悪ではなく、貧困と格差の拡大をストップさせる政策である。

- ・生活保護基準の引き下げ・生活保護制度の改悪は、「餓死」「孤立死」を多発させ、国民生活全体の引き下げにつながる。わが国では、現状でも生活保護の利用率や捕捉率があまりにも低いため「餓死」「孤立死」が多発している。



- ・生活保護は憲法25条の生存権保障を具体化した制度である。生活困窮状態に陥っている国民は、国家の恩恵としてではなく、権利として生活保護申請をすることができる。自治体は、生活保護制度に関する広報・周知を徹底して行うべきである。また、学校教育の中でも生活保護の権利性と生活保護の申請手続等権利行使の具体的手続・方法を教えるべきである。

5 貧困問題を解決していくための課題

- (1) 普通に働けば人間らしい生活ができるようになるための労働政策が必要！
最低賃金の大幅引き上げ、非正規労働者の待遇改善、同一価値労働同一賃金制度の確立、労働者派遣法の抜本的改正、職業訓練・職業教育制度の確立など
- (2) 失業や病気などで働けない時でも人間らしい生活ができるようになるための社会保障政策が必要！
生活保護制度の運用改善と生活保護法の改正、雇用保険・年金制度の充実、低所得者層に対するセーフティネット貸付けの充実、公営の低家賃住宅の大量供給、医療・高等教育の無償化など
- (3) 富裕層に対する課税の強化を行う！
貧困と格差を解消するためには消費税増税より富裕層に対する課税強化が必要である。社会保障制度を通じての所得・富の再分配を！

講演2「シングルマザーは語る！所得再分配の問題点」 赤石千衣子氏

男性と一緒にいない女は貧しい
男性と一緒にいても女自身は貧しい
その男性も貧しくなってきた

◆シングルマザーの現状

日本の母子世帯数	123.4 万世帯
母の平均年齢	39.7 歳
母子家庭となっている要因	離婚 81%・非婚 7.8%・死別 7.5%
就労率は81% 年収 223 万円 (就労収入 181 万円)	



◆なぜシングルマザーの賃金がこんなに低いのか。

- ・8割が働いているが6割が非正規雇用であり、子どもを預ける保育設備の整った環境での就労を考えると職業が限られてくる。世界の統計と比較して、日本は子どもの有無による賃金の格差が大きい。また、ジェンダーギャップ指数は低く、女性の経済的活動と政治活動に参加できていない。

◆シングルマザーの困難の現状

- ・母子家庭の母親の就労率は非常に高いが就労収入は181万円。ワーキングプア ダブル、トリプルワークも。養育費をもらっているのは約2割。住宅費が高い。親族同居も多い。母親が子どもと過ごす時間が少ない。進学目標は高いが教育費は貸付金。相談相手がいない。社会的に孤立。

◆シングルマザーと子どもへの社会的支援

- ・メニューはあっても周知・利用率ともに低く機能していない。
- ・しかも社会保障など再分配が機能していない。児童手当や現物給付が少ない。
- ・所得税の最高税率は低下→所得再分配機能が低下。家族関係予算の対GDP比 各国比較 日本は1%以下というのが今の日本の現状。その昔2憶稼いでも1憶5千万円が税で取られていたはず・・・

◆地域で広げる支援活動への期待

- ・豊島区 WAKUWAKU ネットワークでは、プレイパークや無料子ども勉強会、あさやけ子ども食堂などの支援活動を行っている。

シングルマザーが生きやすい社会はすべての人が生きやすい社会になりうる。

- ・シングルマザー支援は子ども支援女性支援双方からも広げられる。やれることはたくさんある。地域ネットワークで困っている子どもたちにアクセスして、自分たちでできることに取り組んでみてほしい。

【参加者の感想より】

- ・貧困という見えにくい問題をわかりやすく話していただきました。困っている人(社会的弱者)を切り捨てる政治状況は今貧困でない者も生きにくい世の中になってしまうと思います。新自由主義は富める者はますます富を独り占めし、多くは困窮する社会。私たちが当事者として声を上げていくことが大切だと思います。
- ・国の政策が原因で貧困と格差が拡大しているのは明らか。困っていることを相談できない、助けを求めても手を差しのべられることのない社会も問題。夫が亡くなり自分も高齢化すれば貧困者になることが容易に想像できます。身近な問題として考えたいと思います。
- ・これだけ格差が広がっているのだから、みんなが意識を変えなければと思う。

講師のお二人の所属する”反貧困ネットワーク”のHPは <http://antipoverty-network.org/>